

物のいきほりあがるといふも、皆氣のおこり立事にて同じ古言也。さてこのほは、もと濁音なるを、後世は乎利ナリの如く唱ふるは音便也。ほの濁りを乎ナといふ類有ことぞ、また五百霧ホキリを略きて、伊穗理ホリといふにも有べく、何れにも理り聞ゆ。

もや

〔倭訓栞前編三十三〕もや 俗に霧をいへり、蝦夷の俗も亦同じといへり、又もよひともいへり、

〔改正月令博物筌三秋〕霧霧中略立は霧也、降は霧也、天氣下り地應霧ざるものなり、

〔和漢三才圖會三象〕霧霧音霧 俗作霧、霧、和名岐利霧、俗云、毛也、中按、霧、霧二種皆露之變者、秋

月盛、而其降也、有朝與夕、中霧凋落枝葉、霧凋枯根莖、故農人最畏霧、中霧自地升、略似煙、近山

麓處霧多也、凡秋冬不晴不陰、朦朦而稍温、則爲霧、霧兆、

### 露 甘露併入

露ハ、ツユト云フ、夏秋ノ夜間、水氣ノ凝リテ小團ト爲リタル者ナリ、

甘露ハ、アマキツユト訓ズ、降レバ以テ祥瑞トセリ、

名稱

〔倭名類聚抄風雪〕露 三禮義宗云、白露八月節、寒露九月節、音路中略和名豆由

〔箋注倭名類聚抄風雨〕三禮義宗三十卷、梁崔靈恩撰、見隋書唐書、今無傳本、太平御覽引云、九月寒

露爲節、不及白露、按玉燭寶典引蔡邕月令章句云、今歷中秋白露節、卽此事、說文、露潤澤也、釋名、露

慮也、覆慮物也、詩蕭蓼箋、露者天所以潤萬物、

〔段注說文解字雨十一〕露潤澤也、澤與露疊韻、五經通義曰、和氣津凝爲露、蔡邕月令曰、露者陰之液

農章羸露字、作路是也、从雨、路聲、洛故切、